

澤本 権

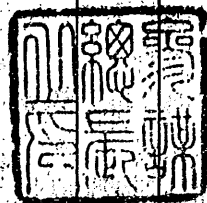
大本
陸
参通第一四七

明治三十八年十月十六日



参謀總長侯爵山縣有朋

此書今令長子等以書為誌



正館、對馬、長崎、坊世、保各
要、塞、守、備、神、隊、我、國、兵、列
解、之、上、年、冬、乃、通、報、也



大本
營

0349

軍令

大本陸 參通第一〇六六號第

明治三十八年十月十六日



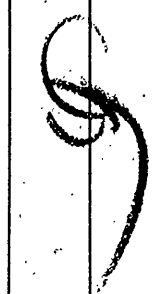
參謀總長 侯爵 山縣 有朋

海軍大臣 帥 長子 爵 伯爵 東 祐 三 郎



通 報

永興海峽、要塞、依違シテ、鎮海海峽、要
塞、砲台、一、中、隊、ハ、鎮海海峽、要塞、ハ、復、修
セシメ、ス、ル



大本營

0350

陸軍省
陸軍部

大本
陸軍部
參通第一四六三號第

明治三十八年十月十六日

參謀總長侯爵山縣有朋

海軍軍令部長子爵伊東祐亨殿

通報

別紙、部隊、逐次凱旋セシメラル

陸軍部
參謀部
陸軍省

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

0351

大本營

滿洲軍總司令部

同 隸 屬

滿洲軍臨時陸軍軍樂隊

獨立重砲兵旅團及其隸屬部隊

遼東兵站部(要務終了後凱旋)

總兵站監隸屬

臨時電話隊

第一第二手押式輕便鐵道班並隸屬補助輸卒隊

臨時鐵道大隊並隸屬補助輸卒隊

總兵站監隸屬補助輸卒隊

0352

第一軍

第二軍

第三軍

第四軍

鴨綠江軍

(第十四師團) (第十四師團機關砲隊及師團輜重火) ヲ除ク

(第十六師團) (第十六師團機關砲隊及師團輜重火) ヲ除ク

0.252-2

海軍大臣

海軍大臣



大表
陸軍
參通第一四六一號

明治三十八年十月十日



參謀總長

侯爵

山縣

有朋

朋

朋

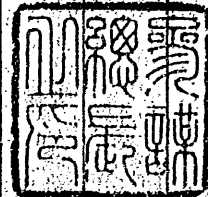
朋

朋

朋

朋

海軍大臣
令
陸軍參謀總長
侯爵山縣有朋



通報

韓國駐劄軍司令官ノ令下キアル別紙ノ部隊ハ
凱旋セシメラル

大木營

0353

後備第二師團

後備步兵第十六旅團(第九師團臨時衛生隊隸屬)

後備步兵第二十四聯隊

第一師管國民步兵第一第二大隊

第五師團後備騎兵第一中隊、一小隊

韓國駐劄軍東部兵站部

兵站司令部 七個

韓國駐劄軍豫備馬廠

第三手押式輕便鐵道班

第一師團補助輸卒隊 (陸上勤務) 一隊

0354

第八師団補助輸卒隊

(陸上勤務)

三隊

第九師団補助輸卒隊

(陸上勤務)

三隊

同右

(建築勤務)

一隊

第十師団補助輸卒隊

(建築勤務)

一隊

0355

海軍大臣



大本營參通第一四五九號

明治三十八年十月十六日



參謀總長 侯爵 山縣 有朋

海軍軍令部 太子爵 伊東 祐亨 殿



通報

第十三師團(步兵第四十九聯隊第一大隊、步兵第五十、第五十二聯隊、野戰砲兵第十九聯隊第二大隊、機關砲隊、師團輜重欠)ハ、韓國ニ派遣シ、韓國駐劄軍司令官ノ命令ニ屬セシメラル。但シ目下樺太ニ在ル部隊ハ、同地乘船迄一時樺太守備隊司令官ノ指揮ニ屬セラル。

大本營

0356

寶大印 魂

参通第一四六〇号

明治三十八年十月廿一日



参謀總長 侯爵 山縣 有朋



海軍大臣 伊藤 孝 奉 命 移 取

通 報

第五師團 (機関砲隊並師團糧重欠) 八弟

二軍 戰鬥 序列 ヨリ 脱 離 韓 國 駐 營 軍

司令官 命令 下 屬 セ シ ヲ ラ 凡



0357

大 本 營

濟南

參通第一四七三號

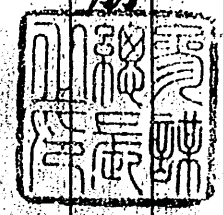
明治三十八年十月十六日

禮

第

參謀總長侯爵山縣有朋

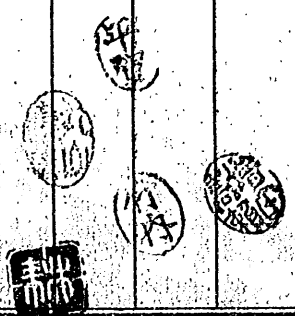
海軍少令部長子爵東祐吉



通報

樺太北部殘留部隊、同地へ撤退せしめらる

Handwritten signature and flourish.



大本營

0358

陸軍大臣



大本
陸軍 參通第一四六一號

明治三十八年十月二十六日

參謀總長侯爵山縣有朋

海軍大臣伊藤子爵

旅順要塞司令官今井兼次郎
部隊、軌旋、今下、見、古、池、部、隊、軌、旋、今、下、見、古、池

第九師團補給隊
第十一師團後備工兵第一中隊
第三師團國民步兵第一第二大隊
第五師團步兵第五十聯隊(第一大隊欠)

0359

秘

書

了



大本 謀略部 六の九

明治三十八年十月十八日



大本營陸軍參謀次長長岡外史

海軍令部 治毛河身復五印形

外 北 補 守 由 及 派 赴 輪 子
部 隊 之 表 北 補 守 由 及 派 赴 輪 子
其 之 各 回 基 上 亦 可 及 是 中 介 也



原



0361

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ナ
本
巻

0362

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

秘

北韓守備隊派遣輸送配船豫定表

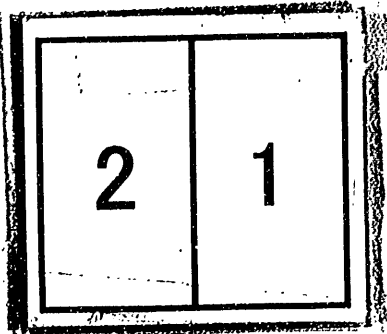
運輸通信長官部

考 備	北 陸	野戰砲兵第十九聯隊ノ一中隊	野戰砲兵第十九聯隊ノ一中隊	野戰砲兵第十九聯隊ノ一中隊	野戰砲兵第十九聯隊(第一大隊ノ三中隊ノ第二大隊ノ)	野戰砲兵第十九聯隊ノ一中隊	若 狹	歩兵第四十九聯隊ノ一大隊	工兵第十三大隊(一中隊ノ)	歩兵第四十九聯隊(三大隊ノ)	歩兵第二十五旅團司令部	歩兵第五十一聯隊(第一大隊ノ三中隊ノ)	騎兵第十七聯隊ノ一中隊	騎兵第十七聯隊ノ一中隊	騎兵第十七聯隊(三中隊ノ)	歩兵第五十一聯隊(第一大隊ノ二中隊ノ)	歩兵第二十六旅團司令部	第十三師團司令部	船 名	部 隊 號
	宇																			兼船地
	山 元	津 清	城 津	山	元															
日 九 十 月 十					日 八 十 月 十															豫定日

一、歩兵第五十聯隊ノ二大隊及工兵第一中隊ハ廣島集合ノ上更ニ船舶輸送ヲナスモノトス
 二、兼船地碓泊場司令部ニ多少配船ヲ變更スルコトアリ

0363

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

秘

北韓引歸還諸部隊輸送配船豫定表 其一

運輸通信長官部

船名	部隊	人員	人員計	馬匹	馬匹計	集船地	揚陸地
第二加賀	後備第二師團彈藥大隊本部 同 第三步兵彈藥縱列	一二 二〇三	二一五	一〇	一七四		
讚岐	同 步兵第十八旅團司令部 同 步兵第五十六聯隊(重隊)第一隊、第二隊、第三隊、第四隊 同 野戰砲兵隊第三中隊	二一 二二〇 二三五	二六六	一一 一三三 一三二	二七六		
若狹	同 第三砲兵彈藥縱列 同 步兵第五十六聯隊第二大隊	一七九 九一四	一〇九三	一五九 六五	二二四		
第二元山	同 步兵第五十六聯隊第三大隊、三中隊		六六六				
多喜	同 輜重兵大隊本部 同 第三糧食縱列(半縱列欠)	一三 一八二	一九九	九	一四九		
米山	同 步兵第四十七聯隊(二大隊欠)		九七三		七〇		
旺洋	同 第三糧食半縱列		一八二		一三九		
第二乾坤	同 第一砲兵彈藥縱列		二〇〇		一五六		
北都	同 第一糧食縱列		三六九		二八六		
膽振	同 第一步兵彈藥縱列		一九九		一六四		
辰	同 騎兵隊本部及第三中隊		一七六		一七四		
備後	同 野戰砲兵聯隊第一大隊本部及二中隊 同 工兵大隊(一中隊欠)	二二四 二四九	四七三	一四一 四六	一八七		
天津	同 騎兵隊第一中隊 同 衛生隊	一八一 四七九	六六〇	一七一 六一	二三二		
新竹	同 野戰砲兵聯隊第二中隊 同 工兵第二中隊	二二七 二五四	四八一	一三四 三九	一七三		
孟買	同 步兵第三聯隊第一大隊		九七五		七一		
神州	同 步兵第四十七聯隊第二大隊 同 第三師團司令部		九五七		六六		
博多	同 步兵第十七旅團司令部 同 步兵第三聯隊(二大隊欠)	二八五 九八四	一二九三	一四七 七六	二三六		
遼東	同 步兵第三十三聯隊第一大隊		一〇一一		六五		
愛國	同 野戰砲兵聯隊第四中隊	一七九	三五六	一五〇	一八九		
				清			
宇 門司 品		宇 門司 品		宇 門司 品		宇 門司 品	
六 十 二 月 十		日 五 十 二 月 十		日 四 廿 月 十		日 三 十 二 月 十	

0365 0364

勢	長	第一東郷	仁	丹	北	愛	遼	博	神	孟	新	天	備	辰	膳	北	第	旺	米	多	第	若	讚											
德	幸	郷	義	波	陸	國	東	多	州	買	竹	津	後	辰	振	都	二	洋	山	喜	元	狹	岐											
竹腰組軍役夫	同	後備第三師團步兵第五聯隊第一大隊	豊前組軍役夫	同 第一師團第三野戰電信隊	同 騎兵第二中隊	同 野戰砲兵聯隊第四中隊	同 步兵第三聯隊(大隊欠)	同 步兵第十七旅團司令部	同 步兵第四十七聯隊第二大隊	同 步兵第三聯隊第一大隊	同 工兵第二中隊	同 野戰砲兵聯隊第三中隊	同 衛生隊	同 騎兵第二中隊	同 工兵大隊(一中隊欠)	同 野戰砲兵聯隊第一大隊本部及中隊	同 騎兵隊本部及第三中隊	同 第一糧食縱列	同 第三糧食半縱列	同 步兵第四十七聯隊(大隊欠)	同 第三糧食縱列(半縱列欠)	同 輜重兵大隊本部	同 步兵第五十六聯隊第一大隊(三中队欠)	同 野戰砲兵第三中隊										
〃	〃	〃	〃	二二一	二八五	一〇一三	〃	一七九	一七九	〃	九八四	二四二	二八五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一八二	一三	〃	九一四	一七九	二三五	二一〇	一三六六	一三三	二七六				
四七一	四四四	九九六	四三九	二五一九	一五〇	三五六	一〇一一	二二九三	九五七	九七五	四八一	六六〇	四七三	一七六	一九九	三六九	二〇〇	一八二	九七三	一九九	六六六	一〇九三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三				
〃	〃	〃	〃	五六	八九	七一	〃	三九	一五〇	〃	七六	一三	一四七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一四〇	九	〃	六五	一五九	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二				
〃	〃	七〇	〃	二一六	一五三	一八九	六五	二三六	六六	七一	一七三	二三二	一八七	一七四	一六四	二八六	一五六	一三九	七〇	一四九	〃	二二四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
津												清																						
兵庫	品	守	門	司	品	守	門	司	品	守	門	司	品	守	門	司	品	守	門	司	品	守	門	司	品	守	門	司	品	守	門	司		
日	七	十	二	月	日	六	十	二	月	日	五	十	二	月	日	四	廿	月	日	三	十	二	日	三	十	二	日	三	十	二	日	三	十	二

極秘

北朝鮮の防衛に必要にして
わが國の防衛に必要にして
わが國の防衛に必要にして

獨立後備第二師團作戰計畫

一、本作戰ノ目的ハ北韓ノ敵ヲ掃蕩シ韓國東北境ヲ防護スルニ在リ
二、本作戰ハ尤ノ要領ニ從ヒ計畫ス

要領

(イ) 使用スヘキ部隊

(ロ) 乘船地

(ハ) 上陸地及上陸設備

(ニ) 船舶輸送及上陸實施

(ホ) 兵站設備

(ヘ) 通信

(イ) 使用スヘキ部隊

三、本作戰ニ使用スヘキ部隊附表第一ノ如シ

(ロ) 乘船地

0366

四、諸部隊ノ乗船地ハ左ノ如シ

後備歩兵第二十五聯隊第一大隊

大坂

全 第四十四聯隊第一大隊

本部及三中隊 多摩津
一中隊 高漫

第十三師団ヲ動員歩兵彈藥一級列

門司

後備第二師団兵站部

大坂

其他ノモノ、乗船地ハ總テ宇品トス

(ハ) 上陸地及上陸設備

五、師団ノ上陸地ハ羅針浦トス

但シ咸興ニ在ル部隊ニ属スヘキ野戰病院一、步砲彈藥各一級列及

糧食一級列ハ元山ニ上陸ス

六、上陸ニ関スル諸設備ハ運輸通信長官之ヲ画定ス

(ニ) 船舶輸送及上陸實施

七、船舶輸送及上陸實施ハ海軍ノ掩護ヲ受クルモノトス

八、最初ニ輸送セラル、諸部隊ト共ニ上陸地ニ集積スヘキ彈藥及給養品ノ数量概テ充ノ如シ

一、彈藥 步砲兵彈藥各一縦列分

二、給養品 師団ノ一ヶ月分

(木) 兵站設備

九、兵站設備ニ関シテハ兵站總監之ヲ画定ス

(ハ) 通信

十、上陸部隊内網トノ通信ハ最初ハ通信船ニヨリテ元山ニ連絡シ後海底線及陸上線ヲ設テ韓国内及内地トノ連絡ヲ通スルモノトス

0368

極
附表第一

12

一、後備第二師團司令部 (留守近衛師團ニテ編成)

一、後備步兵第十七旅團

一、後備步兵第十七旅團司令部 (留守第八師團ニテ編成)

一、後備步兵第三聯隊

一、後備步兵第三十二聯隊

一、後備步兵第四十七聯隊

一、後備步兵第十八旅團

一、後備步兵第十八旅團司令部 (留守第八師團ニテ編成)

一、後備步兵第二十五聯隊第一大隊

一、後備步兵第四十四聯隊第一大隊

一、後備步兵第五十六聯隊

一、後備第二師團後備獨立騎兵中隊 (臨時騎兵中隊ニテ編成)

一、後備第二師團後備野戰砲兵大隊

0369

大隊本部 (留守第二師團ニテ編成)

第二師團後備野戰砲兵第二中隊

第三中隊

第八師團後備野戰砲兵第一中隊

後備第三師團後備獨立野戰砲兵中隊 (第一師團後備野戰砲兵第一中隊)

後備第三師團後備工兵中隊 (第二師團後備工兵第二中隊)

後備第二師團衛生隊 (第十師團第三七動員支隊二月下旬成立)

後備第二師團野戰病院 (第九師團第三七動員支隊二月下旬成立)

後備第二師團彈藥大隊

本部 (第十二師團第三七動員支隊二月下旬成立)

步兵彈藥縱列二個 (第八師團步兵彈藥縱列(第三七動員支隊) 第十師團步兵彈藥縱列(第三七動員支隊) 二月下旬成立)

砲兵彈藥縱列二個 (第二師團砲兵彈藥縱列(第三七動員支隊) 第三師團砲兵彈藥縱列(第三七動員支隊) 二月下旬成立)

一、後備第二師團輜重兵大隊

本部 (第二師團第三十七動員支隊二月下旬成立)

糧食縱列二個 (第一師團第三十七動員支隊二月下旬成立)

一、後備第二師團野戰電信隊一隊 (近衛師團第三十七動員支隊二月下旬成立)

後備第二師團兵站部

一、後備第二師團兵站監部

一、兵站司令部六個 (留守第二師團三月下旬成立)

一、人夫約三千五百人

一、韓國駐劄軍野戰兵器廠

一、衛生及通信要員若干

0371

北韓の近代戦「米」

一 本化戦ミ始ルニ先テ「米」ヲ備ミ他ニ「米」ヲ備ミ
根據ヲ作成シ海陸相連シテ「米」ヲ備ミ

二 上陸地点ニシテ津浦線トシテ「米」ヲ備ミ

三 海軍ニシテ「米」ヲ備ミ

四 海軍ニシテ「米」ヲ備ミ

五 海軍ニシテ「米」ヲ備ミ

六 海軍ニシテ「米」ヲ備ミ

ノミナリ

「~~...~~ 第 1000 号 (附) 第 1000 号」

「~~...~~ 第 1000 号 (附) 第 1000 号」

「~~...~~ 第 1000 号」

0373

其の如く、中世の初め、キリスト教の伝来が、日本の開国に
 大きな影響を及ぼした。この時期に、日本にキリスト教が伝来し、
 日本にキリスト教の文化がもたらされた。この時期は、日本に
 西の文化がもたらされた。この時期は、日本に西の文化がもたらされた。
 この時期は、日本に西の文化がもたらされた。この時期は、日本に
 西の文化がもたらされた。この時期は、日本に西の文化がもたらされた。

皇御極御名
 御名
 御名

0374

Handwritten text in vertical columns, likely a historical document or manuscript. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border.

0375

陸軍大臣事務



海軍

部長

八月二日 日午八時五分 本局發

次長

受信者 軍令部長

發信者 陸軍大臣事務

作取班

電報譯

謀報班

旅順攻略、件之詳しき第三軍ノ意見ニ関スル
 貴軍領收ノ事、旅順攻略ニ関スル本職ノ希望
 望ハ諸公軍總司令官軍第三地ニシテ初着ノ
 節、親シク關係シ、尙ホ其担負、謀長ヲシテ
 隊ノ現状等ヲモ見玉、總司令官謀長ニ告出セシメ
 且、其、崑山縣、各謀長、又大山總司令官
 宛、旅順攻略ノ一日ニ速カニセサル一カニサレ、意、味

(行軍部出稿部中)

0376

ノ電報アリシコトハ、軍令受ケテ其後大山総司
 令官ヨリ通知シ東ノ旅順攻略計畫ハ先
 右等ノ事甚ク危殆シテ定メタシモト
 先外ナリ甚ク重シク繰返シテ交渉スル
 他ナシト認メシモ唯其計畫タルヤ責任者自
 然ノ悟トシテ又其ノ餘裕ハ存シアルモト推
 察セシメ故ニ其ノハ適者ノ時極アラハ其軍
 ニ直接ニ存続ノ希望ヲ述フル外ナシト思考
 其折極閣下ヨリ大山総司令官宛リ得細
 ナ電報ヲ接受セシメ故ニ唯其成行ヲ見届
 リシメテナリ然レトモ其時ハ己ノ方ニ軍

0377

攻撃ヲ開始せん 場合ニテ爾來其怖況ヲ見
 聞スルニ 軍ニ於テモ 充分豫順攻略ノ急カガ
 ル一カヲサルヲ 認メレモノ、如ク故 着々トシテ其法ヲ
 進メツアリト 認ムルカ故ニ此際尚彼是ト 艦隊ニ
 リ注文ヲ發スルニトハ 好マシカラサルコト、思考ス
 艦隊ノ現状ハ其後尚進ト 修理中ノ要ス
 ル傾向ヲ増シツ、アルニハ 相違ナシト 輸
 幸ニシテ右當事者ノ注意ニ依リ 未夕慮慮セ
 之程 甚白シキニ至ラス 固ハバルクニ 艦隊モ當時
 ノ豫想ニ及シ 幸ニ未夕車航ノ

海軍

ノ途程、ソツケル様様、モ要キカ故、艦隊ノ自下航
 ハキ手既ハ次上ニモ尚、管艦艇ノ使用ト保存ト
 ニ注意シテ務メテ現状ヲ維持シ、攻略ノ時標迄
 我慢スルヲ外致方要シト思考ス、目下艦隊ハ
 全部出勤シ居レドモ現状ノ尤モ顧慮ス、既
 逐隊水雷艦隊ハ二日、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

(行印社自給益中山)

0379

海軍

希聖の教し、操り人友の同陳を以て、同時之更、兼
 三軍ト直接ノ指揮ヲおスノ必要ニ認ムル也
 又々第三軍ヲ指揮シテ受ケレトモナカレシ
 レドモ今ニ至リテ、此ノ中コトヲ云フモ、其意ナリ奉
 賜ノ光合、兼三軍ノ作戦ノ困難ト、軍人ノ友ノ
 苦心トヲ諒シ、誠心誠意、唯其成功ノ一日ニ達
 カラレトシ、國家ノ為メ、希聖スルノ外ナキナリ

(社団法人海軍)

0380

明治三十七年四月十五日

久々自津厚長候爵大山岩殿
海軍軍令部並に高野河軍統率
右通奉卿 久裁候

第三軍、聯合艦隊協同作戰方針

一本協同作戰ノ目的ハ先ツ遼東半島ノ地頭ヲ占領シ
敵軍連絡ヲ断じ爾後ノ作戰ニ應スル基地ヲ作成
セントスルニ在リ

二 第三軍ハ先ツ大同江下流ニ集合シ機ヲ見テ發進
シ遼東半島ノ南岸塩太澳ヨリ大沙河々口ニ互ル
海岸ニ上陸セシメントス

三 聯合艦隊ハ一面朝鮮海峡ヲ扼シテ浦塩斯徳ニ
在ル敵ノ分艦隊ニ備、一面旅順口ニ在ル敵ノ主力
艦隊ヲ制壓シ第三軍ノ輸送陸ヲ掩護セシメ
ントス

又爲シ得レハ艦隊ヲ分遣シ旭湾、營口及蓋平等

諸要地ヲ佯攻威嚇セシメ又艦隊ノ舟艇ヲシテ第二
軍ノ上陸ヲ援助セシメ努メテ我軍ノ作戰ヲ容易
ナラシムルコトヲ圖ラシメントス

四 第二軍ノ大同江集合地ヨリ上陸地點ニ至ル海上
運動ハ聯合艦隊司令長官ヲシテ之ヲ指示セシメ
ントス

0382

軍務局

軍令部



寫



陸軍第一師

陸軍第一師臨時築城團報告

第三臨時築城團報告

七月三日永興湾虎島

一、築城工事及備砲作業ノ景況ノ左表ニ現示ス

砲名、名称	備砲ノ種類	築城ノ程度	備砲ノ程度	備考
大第一砲台	七五連四門	完成	未定	砲灰材料不足品 詰流中
大第二砲台	七五連二	完成	未定	同右
新第一砲台	二八揚四	完成	完成	砲灰材料不足品 詰流中
新第二砲台	七五連四	完成	未定	同右
第一砲台	七五連四	完成	未定	同右
第二砲台	二八揚六	完成	完成	
第三砲台	二八加四	七月十日噴霧機整	他未定	火砲灰材料不足品 詰流中
第四砲台	五七連二	完成	未定	

0383

新 新樟里砲台 二四四門	完成	完成	砲床材料不足也 請於中
種 瑞城砲台 五七連四	砲完成	未定	
里 元平里植舎棟	七月十五日の 完成協定	完成	
方 同 砲台 五七連二	砲完成	未定	砲床材料不足也 請於中
面 臨時砲台 五七連二	砲完成	未定	同右
二、永久若シハ半永久ニ係ル諸倉庫、兵舎 等、建築ハ未ル十五日頃ニハ全部完成 ノ見込ナシ			
三、電信電線ハ永久的ニ架設シ完了シ 且下器具材料甚要實土司令部ニ引 渡準備中ナリ			
四、垣々砦、如キ軍道ハ海岸、大部シ濠道 ニ其他、山地軍道モ豫定、如ク竣工セリ			

(新橋北村納)

五、電燈及同費動機機関ハ未ク到着セズ其
 建築ニ要スル材料及諸職工ハ尙尙申請セ
 ル所ノ如シ此永久工事ニハ石材到着後
 少クモ二三ヶ月ヲ要スルナランカ但シ当團ヲ
 他ニ轉用セラルルノ必要アリト考テハ此工
 事ハ要塞司令部工兵部員シテ担任
 セシムルモ差支ナキヲ信ス
 六、戦利品連射砲中ニハ破損不足品等多
 シ目下調査中ナリ且ツ砲床建築ニ要
 スル波底螺桿ノ類ハ砲兵部長ニ請求
 シ置キタリ
 七、地形測量ハ引續キ實施中ナリ
 八、時日餘裕ヲ得ル猶軍需ヲ完全ニシ

且ツ之ヲ延長セントス

第三臨時築城團長 松井庫之助

大本營參謀次長 長岡外史殿

(新編北野誌)

0386

印

十月九日長岡長尾忠房長子長尾忠徳参上
長尾通(長尾重也)の
(左文、波平の解雇ノ状況判断)
次長

聯合長官
沖手使

十月九日午後三時十分場 (40)

大本營海軍部

(瀬田)

0387

極秘

参謀次長宛

三十七年十一月廿六日午前十一時早考電

吉岡早考電

在相右

総参謀次長

大本營ニ於テハ波羅の艦隊ハ何シノ般路ヲ取リ
凡ソ何日頃極東ニ到達シ得ルモノト判断セラル
ヤ此判断ハ今右ニ於ケン諸般計画ノ基礎ト
ナルベキヲ以テ豫メ通報セラルニ度

右ノ電報ニ對シテ参謀本部ハ送リヨ
回考案ノ材料別紙ノ通リ

三十七年十一月廿六日午後十一時

0388

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ナ
ノ
ハ
シ
ヨ
ロ
シ
ク
シ
ノ
ク

0389

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a historical document or letter. The text is written in a cursive style (sōsho) and is organized into approximately 10 vertical columns. The characters are dense and difficult to read without specialized knowledge of historical Japanese script.



Handwritten Japanese text in a vertical column on the right side of the page, possibly a postscript or a separate note.

0390

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on a page with horizontal lines. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The characters are dense and fluid, characteristic of a historical cursive style.

0391

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically on a page with a double-line border. It consists of approximately 12 lines of dense, flowing characters. Some characters are bold and prominent, while others are smaller and more delicate. The overall appearance is that of a formal or semi-formal written communication from a past era.

0392

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written on a page with horizontal lines. The characters are dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the script.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous section. This section includes several lines of text, some of which are crossed out with a horizontal line. The handwriting is consistent with the first section.

0393

初書 此の書は、
 江戸時代、
 徳川幕府の
 御用書生、
 大田南畝の
 筆による
 ものである。
 南畝は、
 江戸時代
 の著名な
 書生として
 知られる。

5



波羅的艦隊 (平東) 関スル判断

波羅的艦隊令而、行動は其諸般、準備ヲ案スルニ
 彼、物資ヲ中立國ニ需ムルノ不便ヲ避ケシガ爲メ豫メ
 大規模ノ設備ヲ爲シ多數ノ石炭船ヲ航路上各所
 へ配置シ更ニ自ラ給炭給水用ノ船舶工作船・水雷
 艦・病院船ヲ伴ヒ注意中ニ若ハ弱邦ノ港灣ニ寄港
 シ又ハ靜穏ナル海上ニ於テ炭水ノ補充ヲ爲シ速航
 シツルカ故ニ行程意外ニ駁速ナルモノアリ青島
 日本周リホウ軍港ヲ突セシ以來一珠海峡ニシテモ
 シウガゴ、又ハモロコシ國タンジール、寄港シテ炭

0396

水ヲ補充シ司令官ヲオトルカサノ率ル艦隊ノ喜望峯
 月三日夕シジールヲ發シ日暮ニ上島シ艦隊司令官
 口セエトウエンスキルノ率ル艦隊司令官
 夕方ニ上島シ向ヒ夕シジールヲ發セリ
 方針ヲ以テ進航スルニ於テ途中何等ノ其行程ヲ妨
 シルモノアルヲ見ス信スヤ情報ニ因リ艦隊ニ二分シ
 一ハ喜望峯航路ヲ一ハ蘇西航路ヲ執リテ一タヒコ
 カカスカル島附近ニ集合シ更ニ東航ノ途ニ執クヘシト
 今喜望峯航路ニ執キ主力艦隊ヲ標準トスレバ
 カカスカル島ニ於テ艦隊集合期ハ十月中旬ニシ
 テ疑透艦木雷艇ハ蘇士ヨリ亞刺比亞・印度ノ沿岸
 ヲ至テ東進シ艦隊ニ集合地ヲ直ニ馬來群島
 附近ニ航シ茲ニ準備ヲ整ヘテ北上スルモノトスレハ

0397

運送部

遅リ又明年一月上旬に台湾海峡附近に達し得ルモノト認め
 蓋シ波羅伽艦隊乗航ノ遅速ニ戦局ノ進行ニ伴フハ
 キカ故ニ印度洋航過ノ期日並ニ馬來群島附近より更
 ニ北上シテ直ニ決戦ヲ試ムルヤ否ヤハ主トシテ旅順口ノ
 運命ト彼我艦隊ノ對勢如何トシテ之ト無彼レニシテ
 交戦ノ持統ヲ断念セサル以上ハ飽テテ海上權ヲ
 爭ハサルハカラサルハ理ノ勝劣キトモニシテ且ツ彼が
 極東ニ艦隊ヲ有スルト否トハ終局ノ問題ニ對シテ
 之亦至大ノ關係ヲ有スルモノナリトモ思フトキハ彼ハ
 旅順艦隊ノ運命如何ニ係ラス必ス波羅伽艦隊乗航
 ヲ断念セサルベキニ殆ト疑ナキ所ナリトス
 以上波羅伽艦隊ノ經濟速力ニヨリ其全カヲ擧テ極東
 ニ來リ得ヘキ時期ニ就キ判断セルモノナルカ若シ夫レ旅

順口ノ攻略意外ニ永引クコトナリ其ノ意ヲ疑フニテ意
外ナル急航海ヲ為シシノ本年中之極東ニ近キ来ラシム
ルコトナキヲ保スヘカウガ
トナリ

十月十三日 大正官海軍第百號

(附言)最近ニ提受セシロイト電報ニ依リハハニテ
艦隊ニ屬スル戰艦四隻並洋艦五隻運送船七隻
等ヲ已ニ併任西要其船セ子カシ一先列カシ
ニ到着シ石炭積込中ナリトナリ

秘

波羅的艦隊來東ニ関スル判斷

波羅的艦隊今面ノ行動并ニ其諸般ノ準備ヲ察スルニ彼
 物資ヲ中立國ニ需ムルノ不便ヲ避ケンカ為ノ豫メ大規模ノ設
 備ヲ為シ多數ノ石炭船ヲ航路上各所ニ配置シ更ニ自ラ給炭
 給水用ノ船舶工作船水雷母艦病院船ヲ伴ヒ好意中立表
 示シ弱邦ノ港灣ニ寄港シ又ハ靜穩ナル公海上ニ於テ炭水ヲ補
 充ヲ為シ進航シツアルカ故ニ行程意外ニ駿速ナルモノアリ
 去月十五日本國リボウ軍港ヲ發セシ以來丁抹海峡ニ至
 ルブルニウヰグニ又ハモロツコ國タンジールニ寄港シテ炭水ヲ補
 充シ司令官フエルケルサハノ率フル艦隊ノ一部ハ本月三日タン
 ジールヲ發シテ同十日クリート島ニ到著シ黑海ヨリ來ル數
 隻ノ運送船ト合シ司令長官ロゼストウエンスキーノ率フル主
 艦隊ハ同五日ケイプウエルド島ニ向ヒタンジールヲ發セリ惟
 フニ如

0400

上ノ方針ヲ以テ進航スルニ於テハ途中何等ノ特ニ其行程ヲ妨クルモノアルヲ見ス信スモ情報ニ依リ艦隊ハ二分シテ一ハ喜望峰航路ヲ一ハ蘇士航路ヲ執リテ一タヒマダガスカル島附近ニ集合シ更ニ東航ノ途ニ就クヘシト今喜望峰航路就キシ主力艦隊ヲ標準トスレバマダガスカル島ニ於ケル艦隊集合ノ期ハ十二月中旬ニシテ驅逐艦水雷艇ハ蘇士ヨリ亞刺比亞印度ノ沿岸ヲ經テ東遣シ艦隊ハ集合地ヨリ直ニ馬來群島附近ニ航シ茲ニ準備ヲ整ヘテ北上スルモノトスレバ彼ハ遲ニ明年一月上旬ニ臺灣海峡附近ニ達シ得ルモノト認ム蓋シ波羅的艦隊東航ノ遲速ハ戰局ノ進行ニ伴フヘキカ故ニ印度洋航過ノ期日并ニ馬來群島附近ヨリ更ニ北上シテ直ニ決戰ヲ試ムルヤ否ヤハ主トシテ旅順口ノ運命ト彼我艦隊對勢如何トニ因ルヘシト雖モ彼ニシテ交戦ノ持續ヲ斷念セサル以

上ハ飽マテ海上權ヲ爭ハサルヘカラサルハ理ノ最モ嗜易キトヨ
ミシテ且ツ彼カ極東ニ艦隊ヲ有スルト否トハ終局ノ問題ニ對シ
テモ亦至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ思フトキハ彼ハ旅順艦隊ノ
運命如何ニ拘ラス必ス波羅的艦隊ノ東遣ヲ斷念セサルヘキ
殆ト疑ナキ所ナリトス
以上ハ波羅的艦隊カ經濟速力ニ依リ其全カヲ擧ケ極東ニ
來リ得ヘキ時期ニ就キ判斷セルモノナルカ若シ夫レ旅順口攻
略意外ニ永引クコトモアルニ於テハ偶々彼ヲシテ意外ナル急航
海ヲ為サシメ本年申ニ極東ニ近ツキ來ラレムルコトナキヲ保ス
ヘカラサルナリ

明治三十七年十月十三日

大本營海軍幕僚

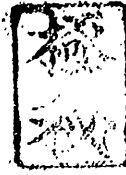
(附言) 最近ニ接受セル「ロイド」電報ニ依リ、波羅的艦

隊ニ属スル戦艦四巡洋艦五及運送船七ハ已ニ
佛領西亞弗利加セネガルノ一港ダカールニ到着シ
石炭積込中ナリト云フ

0403

(2)

心



十一月九日^{山縣}大正電報
リ電電セヨコトナリ

(大正六年宮議)

次長

聯合正長
神正長

イリノコトナリ
大正六年宮議
大正六年宮議

大本營海軍部

0404

之

標

秘

先刺点译在案以電報寫

別紙壹通及函送付也

十月九日

印

長岡次長

伊集院次長閣下

大本巻

0405

電報 十月九日午前一時發

總司令官宛

總長

波^爾的艦隊ニ係ル大本營ノ情況判斷
ハ次長ヲシテ過刻然參謀長ニ返電セシ
メタリ此情況ニ就テ大本營會議ヲ
開キレニ速カニ旅順敵艦ヲ撃破シ我
海軍ヲシテ一日モ早ク其艦艇ノ修理ニ
着手セシメ第一ノ海戰準備ヲ整正シ
ルノ時日ヲ得セシムルコト頗ル緊要ナリ之
カ為ニ第三軍先ツ敵艦撃破ノ目的ヲ達

0406

スルコトヲ急カサル可ラス若し否スレテ茲其
時日ヲ経過スル中ハ遂ニ救フ可ウサル情態
ニ陥リ陸海全軍作戦上容易ナラザル事ニ
立ケ到ル可レトコトニ議論歸一セリ
右閣下ニ通報シ以テ閣下ノ明断ヲ待ツ之ニ
関スルハ意見見込電ヲ請フ有網自若ス